

高尾山報

令和2年7月号



新天狗社建立

法の水茎

高橋秀城

袖ひちて

我が手に結ぶ

水の面に

天つ星合の

空を見るかな

(「新古今集」藤原長能)

(袖を濡らして手にすくった水の表面に、天にある七夕の夜空が映っているよ)

七月に入って、梅雨も後半となりました。七月七日の七夕の夜空(星合の空)には、織姫(織女星)と彦星(牽牛星)は、想い通りに巡り逢えたでしょうか。

この「袖ひちて」の歌では、手のひらの中に澄み渡った天空の夜空が映り込んでいます。キラキラ輝く天の河には、二人の出逢いを叶えるための鵲の橋(鵲)という鳥が翼を並べて天の河に渡すという想像上の橋)も架け

られたでしょうか。すくった水に映し出された一夜の逢瀬に、手をほどきたくない気持ちで湧き上がってきたかもしれ

ません。七月も半ばになるとお盆の時期を迎えます。誰もた

今日や折るらん

年ごとに

水掛草の

露のまにまに

(「蔵玉集」)

(誰もただ今日は盆花を折るのだろう。毎年、精霊棚に手向ける水掛草の露とともに)

「水掛草」は「ミソハギ」(萩)の別名です。お盆にご先祖様をお迎えする棚(精霊棚)には、例えば山野から摘んできた萩や桔梗、菊や百合などの盆花とも呼ばれる花をお供えします

の違があるのでしょうか。前世との結びつきを語るもの、次のような話があります。

今となっては昔のこと。筑前の国(今の福岡県の北西部)に、両目が見えなくなっていました。女性がいまいました。いつも涙を流して嘆き悲しんでいました。が、誠心を発して思うには、「私は、宿世(前世の報い)によって、目が見えなくなりました。この上は後世(来

世)のために功德を積んで、ひたすらに『法華経』を誦しよう」と。こう誓うと、それから日夜お経を読み、いつしか四年の月日が経ちました。ある時、夢に一人の尊い僧侶が現れて、「そなたは前世の報いによって視力を失っているが、今、真心をもってお経を読んでいる故に、その両目はたちまち見えるようになるであろう」と告げると、手で両目を撫でられたところで夢から覚めました。

するとその後、両目は開いて、以前のように物を見ることができるようになりました。女性は感涙(ありがた涙)を流して、『法華経』の霊験を知り、さらにつつしみ敬うようになりまし

が、可憐な紅紫色の花をつけるミソハギもまた、お墓やお仏壇などに飾る花の一つです。精霊棚では水(閻伽水)の側に置いて、喉の渇きを癒やしていただきます。

お盆にお迎えるのは、ご先祖様とともに、亡くなられて初めてお盆にお帰りにされる新仏、さらには申してくれる縁者のいない無縁仏または餓鬼とも含まれます。餓鬼と呼ばれる亡者は、喉が針穴のように細くて飲食できないので、常に飢えと渇きに苦しんでいるとい

ます。そこで、喉の渇きを抑える作用のあるミソハギをお供えするのです。このことを少し疑問に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、自分

のご先祖様ならともかく、なぜ縁もゆかりもない無縁仏(餓鬼)にまでお供え物をするのか、と。

ここで思い起こされるのは、日本に古くから伝わる「袖振り合うも多生の縁」ということわざです。

前世は「三世」(過去

す「他生の縁」とも)。「多生の縁」とは、仏教語で「何度も生まれかわる間に結ばれた因縁」

「前世からの因縁」という意味です。「道で見知らぬ人とすれ違う際に、お互いの袖が少し触れ合う程度のつながりも、前世からの因縁による」

「前世は三世」(過去す「他生の縁」とも)。「多生の縁」とは、仏教語で「何度も生まれかわる間に結ばれた因縁」

「前世からの因縁」という意味です。「道で見知らぬ人とすれ違う際に、お互いの袖が少し触れ合う程度のつながりも、前世からの因縁による」

「前世は三世」(過去す「他生の縁」とも)。「多生の縁」とは、仏教語で「何度も生まれかわる間に結ばれた因縁」

(97)

お知らせ

当山執事、飯沢秀三僧正が七月一日をもちまして、執事職を退任されました。退任後は、葉王院相談役に就任され、引き続き高尾山興隆の為にご指導を頂きます。尚、後任の執事として、教務部長の佐藤秀仁僧正が就任致します。

人事異動(七月一日付)

執事 佐藤 秀仁
相談役 飯沢 秀三

「前世からの因縁(宿世)が決められた定めではなく、この世での行いによって変えられるものであることを示していると言えるでしょう。女性の誠心(偽りのない心)が、未来の人生を切り開いたのです。我等が宿世のめでたさは、釈迦牟尼仏の正法にこの世に生まれて人と成り、一乗妙法聞くぞかし。」(梁塵秘抄)



お盆には亡き人を偲び墓前に手を合わせる

緑の素晴らしさは、お釈迦様の正しい教えの時代にこの世に生まれて人間となり、尊い『法華経』を聞けることだ。夏の夜空の星々には、ご先祖様の光も輝いているのでしょか。七夕は年に一度の再会ですが、織姫と彦星の心はいつも互いにつながっているでしょう。私たちもご先祖様を思って、お墓やお仏壇に手を合わせれば、いつでもお姿を現してくださいませ。

(栃木北部教区普濟寺)

が、可憐な紅紫色の花をつけるミソハギもまた、お墓やお仏壇などに飾る花の一つです。精霊棚では水(閻伽水)の側に置いて、喉の渇きを癒やしていただきます。お盆にお迎えるのは、ご先祖様とともに、亡くなられて初めてお盆にお帰りにされる新仏、さらには申してくれる縁者のいない無縁仏または餓鬼とも含まれます。餓鬼と呼ばれる亡者は、喉が針穴のように細くて飲食できないので、常に飢えと渇きに苦しんでいるとい

ます。そこで、喉の渇きを抑える作用のあるミソハギをお供えするのです。このことを少し疑問に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、自分



精霊棚には様々な花がお供えされます

天狗社建立開眼法要厳修

梅雨晴れて 高尾天狗社 開眼会

六月二十一日(日)



新たに建立された天狗社の開眼法要が行われた

六月二十一日、飯縄権現堂脇に、新たな天狗社が建立され、菅谷執事長が御導師のもと、開眼法要が執り行われました。高尾山において天狗社は明治時代末頃まで、現在の奥の院不動堂の建つ境内地において、「高尾山富士浅間社」、「飯縄本地堂(現存していない)」と共に、「大天狗小天狗社」としてお祀りされておりました。現在地に遷座されました。

これまでの天狗社は、昭和二十三年十月十五日に、立川市在住の杉山忠太郎氏の奉納により建立されたお社でした。開眼法要前日の二十日に、旧天狗社は魂抜きのため撥遣法要が行われ、その役目を終えました。今回の建立は、長年に渡り風雨に曝され、損傷



奉納者の福島光子様と菅谷執事長

が著しい様子を見た、篤信者の福島光子様の御奉納によるものです。福島様は、五十年以上も高尾山を信仰し、月参りを続けられておられます。また、高尾山御詠歌講の一員として御詠

歌を勉強し、春秋の高尾山大祭にも参加されております。今回建立されました天狗社が、高尾山天狗信仰の礎として、今後も未永く守り伝えられるよう、願っております。

祝 日本遺産認定

霊気満山 高尾山

人々の祈りが紡ぐ桑都物語

去る六月十九日、高尾山を含む八王子市内の史跡、文化財、芸能などが、東京都初となる日本遺産の「ストーリー」として認定されました。

日本遺産とは、地域の歴史的背景や現代に残る特色を通じて、文化・伝統を一連の物語として紡ぐ、「ストーリー」を文化庁が認定するもので、二〇一五年から始められました。本年は六十九件の申請があり、審査の結果、二十一件が認定され、全国四十七都道府県で総数は百四件となりました。

八王子市が申請した「ストーリー」のタイトルは、「**霊気満山 高尾山**」

「**人々の祈りが紡ぐ 桑都物語**」

となります。そのストーリーは、戦国時代に八王子を治めた

北条氏照公の登場から始まり、氏照公は高尾山に寺領を寄進し、戦勝祈願を行って八王子を守り、城下町の整備を行うなど、後の発展の礎を築きました。江戸時代には「桑都」と称されるようになった八王子は、養蚕業や織物業が盛んになり、甲州道中における最大の宿場町となりました。

そうした発展を背景として、高尾山は八王子や江戸市中の庶民にも霊山として広く信仰を集めるようになりました。そして、現在まで人々の祈る場所として、豊かな伝統文化と共に高尾山が守られているというものです。ストーリーを構成する文化財は次の二十九点となります。

- 北条氏照公関連(六点)
- ①八王子城跡
 - ②八王子城跡 御主殿出土品
 - ③八王子神社
 - ④滝山城跡
 - ⑤北条氏照および家臣墓
 - ⑥小仏関跡
- 高尾山関連(十二点)
- ⑦高尾山
 - ⑧高尾山薬王院文書(北条氏照発給文書)
 - ⑨高尾山のスギ
 - ⑩高尾山薬王院の文化財
 - ⑪御前立御本尊 飯縄大権現像
 - ⑫高尾山薬王院 浄心門
 - ⑬養蚕守護札
 - ⑭杉苗奉納石碑
 - ⑮火渡り祭
 - ⑯水行道場
 - ⑰高尾山のムササビ

- 伝統文化関連(十二件)
- ⑱桑都日記稿本
 - ⑲多摩織
 - ⑳絹の道(浜街道)
 - ㉑八木下要右衛門 屋敷跡(絹の道資料館)
 - ㉒小泉家屋敷
 - ㉓八王子の獅子舞
 - ㉔木遣
 - ㉕八王子車人形
 - ㉖および説経浄瑠璃
 - ㉗上の祭り・下の祭り(八王子まつり)
 - ㉘上の祭り・下の祭りの神輿・山車の神輿・山車

もちろん、今回認定された文化財以外にも、数多くの有形・無形の文化財が残されており、先人から受け継いだ様々な伝統文化と共に、「霊気満山」たる高尾山を子々孫々に未来へと「桑都物語」として継承していくためにも、多くの人達が手を携えていくことがこれまで以上に大切なことになっていくでしょう。



「霊気満山」の扁額が掲げられた浄心門

観音菩薩の宗教

31

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

二十一ターラー菩薩を讃える経典 (その6)

前回に引き続き『二十一ターラーへの讃』の訳出と解説を行う。

(13.1) (ターラーを) 讃歎する。(ターラーは) 無限の時の終末の火のごとき

(13.2) 炎の華鬘の中央に住する

(13.4) 敵の輪を破壊する

(解説) これまでも各詩節冒頭はチベット語訳から「讃歎する」と和訳してきたが(拙稿「観音菩薩の宗教」の参照)、そのサンスクリット語原文では、*namah*、ないし

で表される。カルパは漢訳でも「劫波・劫簸」と音写され、「劫」と略される。モンゴル語訳もサンスクリット語の借用でガラブ (*galab*)。ウイロンソはカルパを「イーロンソの終わり (*eon-ending*)」と英訳している (Willson 前掲書、145頁)。イーオンは無限の時間の意である。アビダルマ仏教では、一つの宇宙が誕生し消滅するまでを一カルパとし、消滅する際に七段階の破壊があるとした。その最初の破壊が火によるものである。慈悲の菩薩たる観音菩薩の涙から生まれたとされるターラーもまた慈悲深き菩薩として尊崇されるが、この『讃』ではしばしば強い破壊力が示されてきた。忿怒尊はインド後期密教やチベット・モンゴル仏教において慈悲相の尊格と二分する人気を博しており、その仏菩薩信仰は日本を含む東アジアとは相違する。馬頭観音や観音の権



赤い忿怒形の十三番目のターラー (https://www.picuki.com/media/1965458520816419453)

化とされた阿修羅などの例外を除けば(拙稿「観音菩薩の宗教」の参照)、東アジア仏教の観音菩薩は総じて柔和な菩薩相である。例えば、『観音経』には十三回の「念彼観音力」とともに観音菩薩の救いが説かれるが(拙稿「観音菩薩の宗教」の参照)、ターラーの一面である力による破壊性は見られない。典型的な例を示すと、「悪しき羅刹」や「毒龍」や「もろもろの鬼」が現れても、これらを観音菩薩が制圧するとは述べられず、それらが敢

(13.2) 「炎」はサンスクリット語でジヴァターラー (*svata*)。「光明」とも訳され、真言宗で常用する「光明真言」に見える「じんばら」はこの語である。ここでは前の「終末の火」にかかると解釈した。

「無限の時の終末」は、サンスクリット語で「カルパ・アンタ (*Kalpa-anta*)」、チベット語では「カルパ・タマ (*bskal-pa-tha ma*)」と音写と翻訳した。

「華鬘」はサンスクリット語「マーラー (*malā*)」で、花輪のこと。「鬘」は「瓔珞」とも漢訳される。この節においてターラーは炎の輪の上に住しているとされ、チベッ

トやモンゴルでは赤い蓮華の上に乗る、身体は暗い赤色の忿怒相で造形されることが多い。

(13.3) 「右足を伸ばし左足を収め」はサンスクリット語で「アーリーダ (*alidha*)」一語で表されるが、チベット語では和訳同様、文にして訳している。

「喜びに包まれて」はサンスクリット語「ムディターバンダ (*mudhābandha*)」より和訳したが、意味が捉えにくい。チベット語訳は「喜びに取り囲まれ (*oskor dga*)」とあり、各注釈も含めてウイロンソの言うように「曖昧 (*ambiguous*)」である(前掲書、一四六頁)。この詩節の漢訳は、「敬禮如盡劫火母/安住熾盛頂髻中/普遍喜悅半跏坐/能摧滅壞惡冤輪」とある。

Sの注釈では「完全に成熟さしむるターラー (*Tārā Paripācākā* / *sgRol ma Yongs su*

smin byed ma)」と名付けられ、尊容は上述のごとく紅蓮の上の立像で、四臂のうちの一は赤い太陽の円盤を持つとされる。赤い身体はすべてを焼き尽くすことを示す。Nの注釈では「敵を破壊するターラー (*Tārā Kipu-cakra-vināśini* / *sgRol ma dgKa dpung joms ma*)」と命名された。

(14.1) (ターラーを) 讃歎する。(ターラーは) 手のひらで打ち砕き

(14.2) 足で大地の表を打ち破る

(14.3) (ターラーは) 眉をひそめ、フーンの音にのみ

(解説) 「手のひら」はサンスクリット語「カラタラ (*kalata*)」の訳語。それによって「打ち砕く者 (*aghata*)」。サンスクリット語では文の形をとり、複合語 (*com-*

pound) として表されているので、文法構造の異なるチベット語に翻訳する際は訳者の解釈が重要になる。その点、モンゴル語は日本語と統語論すなわち語順がほぼ常に同じであるから、大いに和訳の参考になる。チベット語からの重訳のモンゴル語訳を和訳すると、「大地の肝を御手によりて突き刺し」となる。「御手」と和訳したモンゴル語モトル (*mutur*) はサンスクリット語ムドラー (*mudra*) の借用で手の敬語として用いられる。ただし、このモンゴル語訳をサンスクリット語にさかのぼってもムドラーは出てこない。モンゴル語の訳者がサンスクリット語を参照していない一証左である。また、チベット語 (*tsi*) もともに「突き刺す」を意味する。

(14.4) この行のサンスクリット語は「チャラナ・アーハタ・プータレー (*caranahata-bhu-tale*)」。

チャラナは「足」、アーハタは形容詞で「打ち砕く」、プータラは「大地の表」。そのチベット語訳 (*zhabs kyis brdung ma*) は、「足で打つ(この)の女性」とある。

弘法大師空海の『卍字義』はその意義を説いたものである。

江戸消防記念会 第十区高尾山高聲會 木遣塚祭 六月二十一日 於・飯縄権現堂下踊場



青嵐桑の都の高尾山

八王子市 波多野重雄

八王子市は昔から桑都と言われている。

浅川を

渡れば富士の影きよく

桑の都に

青あらしが吹く

と、かの西行法師の歌にあると謂われており、八王子市の紹介のパンフレット等によく書かれている。然し、この歌は、西行の歌集を始め、どの本にも載っていないようだ。

八王子市の宝典といわれる塩野適斎翁（一七七五―一八四七）の『桑都日記』の中に「古をかんがふるに八王子郷を称して桑都と号するは蓋し西行法師の和歌に據りて権興す」。そして、適斎も

いことを述べ、「疑う可しと然りと雖も主人の旧説を誣ふべからず。是に於いては姑らく茲に旧唱に従ふものなり」と記している。そして、浅川の辺で西行法師が佇み、富士を仰いでいる姿を絵にして載せている。

西行法師の時代、当地が「桑の都」と称する程、養蚕が盛んであったとは思われないので、この名称は八王子市が「桑都」の名にふさわしい実績を備えるようになった近世中期以降に作られた物であり、桑都とは八王子の美称であり機業地八王子を象徴するに相応しい言葉である。八王子市の小学校の学校の徽章は桑の葉である。

高尾山の葉王院は、千二百七十有余年前の天平十六年（七四四）

に聖武天皇の勅令により東国鎮守の祈願寺として行基菩薩により開山された。現在、真言宗智山派として「成田山新勝寺」「川崎大師平間寺」と共に三大本山として知られている。

高尾山は天然林を特徴とする山であるが、山中には植林地も廻りに多く、スギ、ヒノキの林が広がっている所も多い。高尾山は標高五九九メートルである。

昭和二年に、麓の清瀧から中腹の茶店まで二キロの道程にケーブルカーを設置。頂上は急勾配（日本一）。コースは南天を始め、季節の花が咲き乱れ乗客を喜ませる。又、ケーブルカー乗車口の右上方にリフト乗場が昭和三十九年に設置された。子ども等が仲良く揺られる姿は微笑ましい。途中、足下に山法師が見下ろせるのも楽しみの一つである。又、北山杉の真直ぐに伸びたその先端の真上を通るので美しい



八王子市の天然記念物に指定されている梢杉

い樹冠が間近に見られカツラの植林地が所々にあり新緑の頃は美しい。ケーブルカー終点から歩いて葉王院は十五分程である。駅から十一丁目茶屋を過ぎると、天然記念物の大梢杉が聳え立つ。新年の注連縄飾り

が風に吹かれる様は暖かい日は親が子を抱き日向ぼっこする姿が微笑ましい。現在七十二匹が賑やかである。葉王院参道の大木の杉並木は見事である。

折り折りの記 (131)

波多野 重雄

落の躑躅まれし跡を笠に見ゆ

高尾山の琵琶滝（六号路）に落下の水は滝壺を巡り、琵琶滝路に沿い山道をせせらぎとなり流れてゆく。丁度春先、初音を聴く頃の登山者はこの断崖の崖淵を競って登る。

路の花が無数咲き乱れる無意識に踏まれる路の躑躅は枯れ果てるものもある。幸い残る路の躑躅は成長し、路の葉に昔踏まれし靴の跡が無残にも縮れて風に吹かれ残っている。

昔、私の近所の家で母親の朝餉に滾る鍋へ、男の子が誤って転び込み顔に大火傷を負い、成長した子に火傷跡が残ったのは誠に哀れだったことを憶ひ出した。

（高尾山健康登山の会会長）

砂山

北原白秋
（漢訳：荒井一雄）

海荒怒涛

佐渡対留

雀啼日暮

呼全星斗

夕風や

砂山を抱き、
夏怒涛（一雄）

砂山

海は荒海、

向うは佐渡よ、

すずめ啼け啼け、

もう日はくれた。

みんな呼べ呼べ、
お星さま出たぞ。

又、琵琶滝路の右手のウラジロガシの大木も昔生。して、景観が素晴らしい。この近くに昔、長編小説の『大菩薩峠』の作者、中里介山の庵跡があり懐かしい。昔、私の友人が高尾の介山宅を尋ねた折、これから白骨温泉へ机籠之介（大菩薩峠の登場人物）が目の病で入院している場所を確認するから失礼。」と立ち話を聞いたことを思い出した。

尚、昭和四十三年、明治百年を記念して、東京の「高尾山」を起点として、大阪の「箕面」まで東海自然歩道が造られ、同時にこの高尾山中に自然研究路六コースが造られた。森林への招待を基本に、解説板なども設置し歩き易いように整備された。

・二号路（高尾山の自然）
山麓から表参道を山頂へ。
三・八キロ 九十分

・二号路（高尾山の森）
山麓から表参道を山頂へ。
三・八キロ 九十分

自然動物センター付近一周。
0・九キロ 三十分

・三号路（高尾山の植物）
ケーブルカー山上駅より南山腹から山頂へ。
二・四キロ 六十分

・四号路（森と植物）
ケーブルカー山上駅先より「北山杉」から山頂へ。
一・五キロ 五十分

・五号路（人間と自然）
山頂附近一周。
0・九キロ 三十分

・六号路（森と水）
山麓から琵琶滝を経て山頂へ。
三・三キロ 八十分

小仏関所跡から蛇籠を経て葉王院に登るコースも季節により飛沫を浴びた岩煙草が咲き誇る姿に心打たれた。清瀧駅から稲荷山コースの赤土（富士山の火山灰）の見える

高尾山の
天寿梢杉注連飾
疾走の馬阿蘇山の
野焼き跡

夜なべして
栗を剥きし母思ふ

（俳句冊子・秋
令和二年四月号より転載）

高尾山年代記

明治大学博物館 外山 徹

7

五世慶圓2 武蔵大石氏と伊勢宗瑞

応仁二年（一四六八）

に晋山した五世慶圓の在世は足かけ五八年の長きにわたった。その間、高尾山を取り巻く情勢にも大きな変化があった。高尾山最寄りの棚田郷を領有した長井氏は、永正元年（一五〇四）十二月、山内上杉氏の軍勢に棚田城（初沢城）を攻囲されていた。城は京王高尾駅の南方、高尾山からは東方に谷を二つ隔てた山中に在った。

武蔵大石氏

北東方面から進攻する山内勢の旗指物は金比羅物見台からよく見えたことだろう。また、攻城戦の常として火矢による攻撃を受けたであろうから、恐らくその黒煙が望見さ

れたにちがいない。

ところで、明治期の史料ながら「永正元年慶圓代当山大火全山山鳥有二帰ス」という記事がある。ざつと四百年近く後の記述ではあるが、年初から伊勢宗瑞の進出が伝えられ、棚田城をめぐる攻防のあった年ゆえに偶然とも思い難い年次の一致である。兵火をこうむったことも想像されるが、この記事についての傍証はなく、確実なこととは言えない。

長井直広は一族とも自害、翌永正二年、扇谷上杉氏は屈服して、長享の乱は終息した。棚田城には山内上杉氏の宿老大石氏が入った。八王子の戦国大名として知られる大石氏の来歴は、近

年通説が覆され、その実相が明らかになりつつある。大石氏の動向が明らかになるのは高尾山が中興された一四世紀後半のことと、山内上杉氏の配下として歴史に登場する代々遠江守を名乗った主筋と石見守を名乗ったのが支流とされる。山内家当主が守護に任じた上野（群馬県）、武蔵、伊豆のそれぞれ守護代を歴任し、家宰の長尾氏と並ぶ存在だった。

応永三年（一四二六）の上杉禪秀の乱では、大石道守（遠江守系）の名が陣中に見える。永享一〇年（一四三八）に鎌倉公方足利持氏と対立した上杉憲実が上野国へ下向した折には、石見守系の憲重とその弟と推定される重仲の名が出てくる。上野から取って返した憲実勢が捕縛した持氏を鎌倉永安寺に幽閉した際には、道守の嫡子とされる憲儀が警護に任じていた。

に鎌倉公方に就任した足利成氏と上杉一族が争った享徳の乱（一四五五、八三）においては、その緒戦の分倍河原合戦で憲儀・重仲が討死、乱の最中に起こった長尾景春の乱では文明九年（一四七七）に憲儀の子源左衛門尉（房重？）が討死するなど、常に主家の藩屏として奮戦する立場にあった。

室町中期までの大名の領地は一円的な領域が形成されていたわけではなく、諸所に分散して所領を有していた。その陪臣クラスもまた知行地は分散の傾向にあり、大石氏がどこを本拠としていたかは不明であったが、山内・扇谷尚上杉氏が争った長享の乱（一四八七、一五〇五）の時期に、遠江守系の定重（源左衛門尉弟）本拠として新座郡館村柏の城（埼玉県志木市）ないし入東郡本郷滝の城（同所沢市）が候補に挙がっている。乱を通じて山内・扇谷

両家の勢力範囲が確定されてゆくにつれて、大石氏の勢力範囲も西南方へ拡張し、扇谷方との最前線に城砦を構えてゆく過程で形成されていったと考えられている。永正元年（一五〇四）の棚田城攻略によって長井氏領を継承、入間・新座から多摩西部にかけての二帯が大石氏の勢力範囲となった。

伊勢宗瑞の台頭

長享の乱の終結も束の間、永正四年（一五〇七）、越後上杉氏の家臣長尾為景が主の房能を襲撃に及ぶ。実兄の山内顕定が平定に向かうもよもやの敗死。下剋上の世の到来である。顕定は古河公方足利成氏の子を養嗣子（顕実）としていたが、同じく養子で顕定には又従兄弟にあたる憲房との間に対立が生じる。この間、南関東に台頭しつつあったのが伊勢宗瑞、後世北条早雲の名で知られる人物であった。

長らく伊勢国（三重県）出身の素浪人という出自が語られていたが、現在では見直されている。幕府要職にあった伊勢氏の支流である備中（岡山県）伊勢氏を出自として、室町將軍家に出仕していたが、駿河国（静岡県）の名族今川義忠が姉を娶ったことを契機に波乱の生涯が展開する。

義忠の死後、後を継いだ従弟の範満と、姉の子龍王丸との間に家督相続をめぐる争いが持ち上がった。長享元年（一四八七）、宗瑞が下向して介入し範満を討つ。龍王丸は後に元服して氏親を名乗る。分国法『今川假名目録』を制定する明君の誕生であった。宗瑞はこれを機に駿河に所領を得る。

伊豆の堀越公方足利政知の庶子であった茶々丸は、弟を殺害して家督を篡奪した。しかし、京都に在った政知正室の子が十一代將軍義澄として擁立されると、明応二年（一九三）、宗瑞は茶々丸討伐に乗り出す。その背景に

は山内・扇谷尚上杉氏の抗争や幕府の意向が指摘される。宗瑞は逃亡した茶々丸を追撃する過程で伊豆半島を制圧してゆくことになる。

この頃の宗瑞の行動は両上杉氏の抗争に今川氏が関与する一環として理解されるようになってきているが、明応三年には扇谷上杉定正が宗瑞に來援を求め、武蔵奥深くまで出征している。宗瑞が小田原城を奪取したのは、近年では明応九年（一五〇〇）ないし翌年までの時期と目されるようになった。が、城主大森氏の山内方転向が理由とされる。永正元年（一五〇四）には扇谷方に加勢して立河原の合戦に参戦、山内勢を破るが、扇谷方の劣勢はくつがえらず翌年降参。その後前述の越後長尾為景の蜂起に両上杉氏が対処を迫られる間、宗瑞は弱体化した扇谷家の後方相模国への進攻に乗り出した。永正七年（一五二〇）、宗瑞は棚田城を攻撃してお

り、この時、在城した大石道俊（定重の子）が北方の由井へ退いたという記録がある。大石氏にとって棚田城は出城で、本拠は浄福寺城と推定されている。由井の地（八王子市下恩方）だったようだ。

上杉勢の反撃によって、一旦は後退を余儀なくされるも、宗瑞は永正九年に再起し、扇谷家配下の三浦氏が構える岡崎城（神奈川県平塚市）を攻略。同一三年に三浦半島の本拠新井城を攻めて三浦義同を敗死させた。永正一五年（一五二八）頃には宗瑞の相模平定は北端の地に達し、長井氏の旧領



北条早雲（伊勢宗瑞）像 小田原市オープンデータサイトから

を継承した大石氏領の一部に及んだとされる。その年の九月までに宗瑞は隠居。小田原に在った子の氏綱が家督を継ぐ。翌年、伊豆垂山にて死去。氏綱はしばらく領国経営に専念した後、大永三年（一五二三）に姓を北条と改めた。鎌倉幕府の執権家の姓を名乗りとすることは、関東管領家である上杉氏に対する公然たる挑戦の意思表示であった。翌年上杉領への進攻を開始、江戸城を攻略する。大永五年、高尾山五世慶圓入寂。後に高尾山の大神とされる北条氏の支配が直接多摩地域に及ぶにはまだ時間があつた。

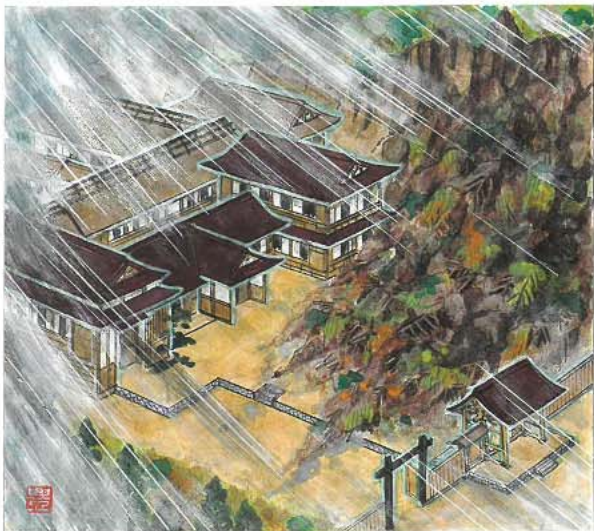
『参考文献』黒田基樹編『論集戦国大名と国衆』武蔵大石氏（石田書院、二〇一〇）、同著『戦国北条五代』（星海社新書、二〇一九）

おこわり 五月号で大石氏の本拠とした「常福寺城」は「浄福寺城」の誤記でした。訂正してお詫び申し上げます。

高尾山物語 27

本堂の倒壊

絵・橋本豊治



明治初期の伽藍配置

現在、大本堂が位置する場所には、明治十九年まで薬師堂、護摩堂、大日堂が並び立っており、当時の本堂は、現在の書院の建てられている場所に位置しておりました。

幕末の動乱の後、高尾山は明治時代になると江戸幕府により安堵されていた寺領の多くが失われ、経済的に苦境に陥いるようになりまし。又世情の混乱により講中や御信徒の参詣が少なくなり、信仰の面でも苦難の時期を迎えることとなった。

そのような中で、明治十九年(一八八六)の九月台風による長雨の影響により、地盤が緩み、本堂裏手で土砂崩れが発生し、本堂を押し潰しました。また、この台風では薬師堂にも被害が出ておりました。

事故発生当時、堂内にいた人はみな無事であり、若干の怪我人が出たものの、一人も犠牲者が出なかつたことが奇跡であると、当時の史料に残されております。

過去は過去です

今現在の
事に目を向け
努力する

高尾山の昆虫

ウラナミアカシジミ

129



ウラナミアカシジミは平地性のゼフィルス(樹上性のシジミチヨウ)の一種で、漢字では(裏波赤小灰蝶)となります。通常蝶は翅を開いた時の鮮やかさに比べ、翅を閉じると地味であることが多いですが、本種は翅裏のオレンジ色の地に碁石のような黒点が波状に表れ、なかなか見応えがあり高級感があります。

ゼフィルスというと、青緑色で金属光沢の強いドリシジミの仲間を想像しがちですが、その中でアカシジミの仲間は深く落ち着きのある味わいを見せられます。

本種の近似種であるアカシジミとは、上から見るとオレンジの色彩が共通でよく似ていますが、翅裏はウラナミ模様にならず、区別は容易です。

クヌギやコナラの雑木林では、かつて多数見られましたが、近年は開発による雑木林の消滅等で、個体数がかなり減少しています。

レッドリストの指定を受け、東京では絶滅危惧種になっていますが、高尾周辺の目撃例は少なからずあり、この秀逸なゼフィルスが華麗に梢を舞い、やがて葉に止まって白慢の翅裏を見せつけてくれるシーンがこの先も続くことを願っています。

(文松島 孝 撮影上村 雅昭)

いけばなの心⑤

華道教授 佐藤 宗明

皆様 こんにちは。暑い日々が続いております。蒸し暑い季節は涼しげな花器を使って草木を生けて、涼を感じるのはどうでしょう？

今回の作品にはFRP(繊維強化プラスチック)を使用した広口の器を使用してました。広口の器で水面を多く見せ、涼を感じてもらおうというのは古来の技法の一つです。この作品は透明な部分のある器を使う事で涼しげな感じをより一層演出してみました。

花型は擬宝珠(ギボウシ)を使った生花正風体です。名前の由来は神社仏閣の手すりや橋の柱の上についていることがある「擬宝珠(ぎぼし)」から来ています。「ぎぼし」はネギ坊主の様な形をしたのですが、この

植物の蕾が『ぎぼし』の形に似ている事から転じて『ギボウシ』となったそうです。
生花正風体では、古くから伝わる『型』があります。ただ、『型』と

いうのは決まった場所に植物を配置するものではなく、植物の美しさを最大限に生かすために長い時間かけて作られてきたものです。

ギボウシは葉が低く茂り、その中から花が高く伸び立つ姿が特徴的な植物です。今回の作品はご覧の通り、その特徴を生かして葉を低く、花を高くあしらっています。

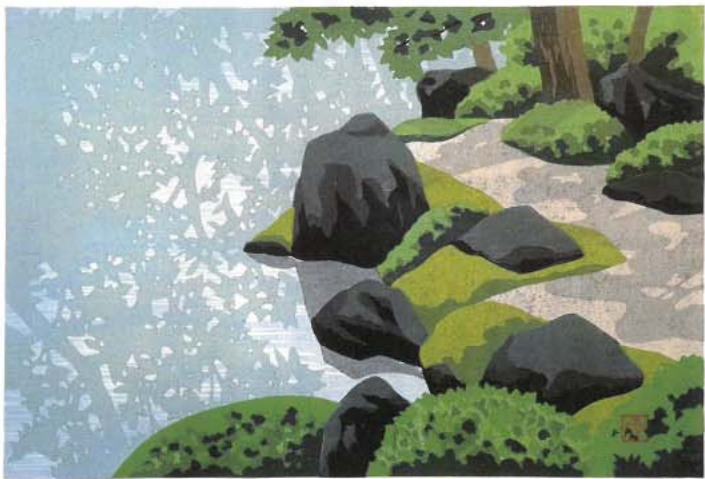


花材：擬宝珠(ぎぼし)

院内散歩

薬王院の展示物

41



木版画 『神光院』

作・井堂雅夫

おはなし散歩道

天狗様の杉

町田市 大澤 桃代

「豊かな村だな。仕事にありつけそうだ」

男は目を見張った。大柄で力持ち故に、気楽に町や村を渡り歩き、田畑の手伝いや樵などをして暮らしていた。

夏の午後、大杉の下の水菓子屋には村人が集っていた。皆で瓜を食い平穩に笑っている。

男も瓜を求め、店主に名主の家を尋ねた。仕事を探すには、名主の家が手取り早い。

「ここは豊かな村だな」「そうだ、天狗様のお陰だ。神社に証がある」

男が驚いていると、水菓子屋は名主の家を指した。沼の畔だった。

名主は男を縁側に招き、大きな身体を見て尋ねた。「お主木を伐れるか？」

「沼や田は潰せん。大杉を伐るしかないのだ」

だが、木は「天狗様の杉」と伝えられ、天狗様が諸国を回る折に、枝に腰を掛けお休みになる処だという。

「難儀な木で幾度も失敗した。平穩なのは天狗様のお陰と村の者はいうが、街道は発展のため必要だ。日はかかるだろうがお頼みしたい」

「木は水菓子屋の……」

ああ、と名主は笑う。店主は村の百姓だが瓜や香煎を売る。むろん杉は名主の地所だ。

「天狗を見た者などおらん。まやかした」

「でも、証がある」とああ、ぼろ団扇か、と名主が呟き、給金は畑仕事の二月分、寝床も食事も用意し手伝いの下男を遣わすという。

悪い話ではない。男は伐ることにした。

翌朝、男は下男と「天狗様の杉」へ向かった。暑い日だった。

下男が耳打ちした。「木を伐ると眠気が襲うぞうだ」という。「ただの噂だ」男は笑う。

眺めるほどに大きな杉だった。幹は天を指し健康やかにのびている。

周りには綱が張られ、遠巻きに村人が見守る。水菓子屋も子どもらも名主もいる。

ここだな、と男が鋸を当て二人して大鋸を引く。ところが引いても引いても、鋸は深く入らない。

引く場所を変えようと同じことで、鉋をふるうも傷一つつかない。気がつけば昼が過ぎ日暮れかけている。その日、大杉は伐れなかった。

次の日もその次の日も伐れない。杉の幹に細い印が付くばかりだ。

十日ばかりたった晩男は久々によく眠った。力がみなぎり「今日こそ



主も目を覚ました。

見上げた大杉の枝に天狗様が立っていた。

「村人よ、よく聞け。大杉は大地と村を結び、豊穣を与えておる。伐ることは罷りならん」

それから「天狗の証じゃ」と、名主の前に団扇を投げた。

「噂は真じゃった」と名主はひれ伏した。

団扇は神社に納められ街道は名主の家を潰し通すことになった。名主は大杉の傍に移り、水菓子屋は店を続け、男は二月分の給金を貰ったという。

(挿し絵・小出 茂) (完)

日々是好日

八王子市 澤田 守正

ある朝、ふとテーブルに目をやると、朝刊に差し込まれていた「葬儀」の事が書かれてあるパンフレットが、私の座るテーブルの上には置かれていた。

「これは何だい？」と妻に聞くと、

「お父さんが読むかと思つて」という返事・・・『ふうん』と云つてしまふ。

もうそろそろ自分の寿命を自覚しなさいよ、と暗に教えているのだろう。人の命が永遠でないことは、常識的には充分承知の上だが、最も身近な妻から考えなさいと迫られると、些かたじろいでしまふ。

このたじろぎは決して怒りではない、寂しさでもない、一種不思議な感覚になる思いであるが、家族としてのいたわりな

のであろう。

しか、自分の葬儀を自分で考えても、仕方のないことであると思つた。これも言葉に出しては言えない不可思議さがある。

令和元年の五月の長い連休の中、人形町界隈で暮らしをしてきた娘が、ふらりと帰つてきた。

嬉しいことに、日本橋人形町にある牛肉の名店「日山本店」のすき焼き用口ス肉と、人形町名物「人形焼き」を土産に持参してくれた。

私、妻、娘、息子と家族そろつての、和やかな団らんの中で、すき焼きを囲み、新元号を迎えられたことを慶び、祝つた。娘は夕方、妻に鳥の照り焼きと、卵焼きを作ってもらい帰つて行った。六月になり、息子が八王子にある温泉「やすら

ぎの湯」に誘つてくれた。久しぶりの親子二人の触れ合いで、息子と一時間ほど湯上りに話をした。お互い、これと言つた難お互いの現状の確認と、いったところであらう。



山本秀順前貫首の揮毫による色紙

無いが、私にとつては、このひとは、貴重な時間であったことだけは確かな事である。

世界的にも高い評価を得ていた、映画監督の小津安二郎(一九〇三―一九六三)の映画のひとつ

マのようであると感じ、また夏目漱石も愛したイギリスの詩人・ロバート・ブラウニング(一八一二―一八八九)の「春の朝」という短い詩の終りの二節『すべて世は事も無し』を思い出した。

そしてこれが「日々是好日」というものかも知れないと思ひ、「日々是好日」の意味合いを調べてみると、良いことも悪いことも、取り巻く現実を見据えたうえで、その日一日を、ただありのままに生きていくことが素晴らしい一日となり、全てが好日になるはずと、中国の唐宋から五代にかけて活躍された、大禅匠・雲門禪師の御言葉であった。

唯単なる良い日、悪い日、という意味合いではなく、生きていることに感謝することから始まり、自分の置かれている現実の今を良しとして、すべて受け入れなければ、心の平安はないということだと悟り、また以前、高尾山前貫首の故・山本秀順大僧正の色紙を見る機会があり、そこに揮毫されていた「感謝する心の中に幸福は芽生える」も同じ意だと気付きました。 合掌 (縁起想のときどきより)

訂正とお詫び 再掲「天狗楓屏風図・若葉」

先月号の表紙に掲載いたしました「高尾天狗楓図屏風・若葉」(画・橋本豊治)につきましては、印刷の状態が思わしくありませんでした。お詫びさせて頂くとともに、訂正のため、本号において改めて画像を掲載させていただきます。



役目を終えたお札や御守りがお焚き上げされる

健康登山者投稿作品

四苦八苦して百八階段

八王子市 西山 正子



台風の翌日
雪の降る中
今日は冬の暖かい日
いつ登っても高尾山は
私を慰めてくる

飯縄様への感謝を込めて 納札供養柴燈大護摩供

六月十九日、小雨降る梅雨空の高尾山麓自動車祈禱殿広場において、納札供養柴燈大護摩供が厳修されました。
守護の役目を終え、高尾山に納められた多くの御護摩札や御守りが、燃え盛る柴燈護摩壇に投入され、御本尊・飯縄大権現様の御加護に感謝する祈りが捧げられました。

高尾山 季節散歩

暦の言葉

「七十二候」

鷹乃学習

「たかすなわちわざをならう」

七月十七日〜七月二十一日頃
春過ぎに孵化した鷹の幼鳥が、飛び方や狩りの方法を覚える頃で、この後に巣立ちを迎えます。
鷹は古来より狩猟に使われる猛禽類で、鷹狩りに用いられる鷹は、「鷹匠」と呼ばれる人達により、雛鳥の頃から訓練を受けます。

今月の風物詩

ほおずき

ほおずきは漢字では「酸漿」または「鬼灯」と書かれます。果実には毒性がありますが、一部の種類は食用として用いられます。また、根は漢方の「酸漿根」という生薬になります。
「鬼灯」の字は、ほおずきの真っ赤な実を、先祖を導く提灯に見立て、枝付きで精霊棚に飾られることから付けられました。

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙「シューカイドウ」

八王子市 楊谷玲子 様



一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

九十段

描く理想を実現させる

自分が思い描いている理想を叶えるということは簡単なことではありません。成し遂げたい「目的」を持ち、目的を達成するために様々な「目標」を掲げ、日々努力を続けることこそが不可欠です。

◎健康登山の皆様へ

高尾山報投稿の御案内

御護摩受付所では、皆さまの「健康」に関する思いや思い出・習慣、又は「健康登山」を通じて経験した出来事などの心温まるお話を聞かせて頂いています。
そこで、皆様のお話を多くの方々にお届けできますように、御護摩受付所に「投稿箱」を設置致しまして、皆様から投稿頂いたお話や作品を、「高尾山報」に掲載させて頂いております。

その他、おもしろい体験・変わった出来事・ボエム・俳句等どんなお話でも結構です。是非お聞かせください。御協力宜しくお願い致します。
※ 投稿頂きました作品は全て掲載できるよう努めますが、当山の判断で掲載しない場合もあります。また、多くの方に投稿頂きました場合、掲載までお時間を頂く場合がございます。すことを御了承下さい。

「高尾山健康登山の証」のお勧め

年間約二百八十万の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、いまでは約五万人の方々が会員となられております。

期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみください。

また、一冊に付き二十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されますとお祝い膳として、精進料理の御接待や、健康登山者限定の記念品などと交換もできます。



帳面……七百元
スタンプ…百円

紙燈籠奉納のおすすめ

高尾山では八月二十二日の十八時より、有喜苑において、全国の医療従事者に感謝の念を届けるため、御奉納頂きました紙燈籠を献灯し、柴燈大護摩供を厳修致します。

紙燈籠には奉納者名と願いを記し、諸願成就を祈念致します。奉納ご希望の方は手紙又はFAXにてお申込み下さい。ご不明な点等ございましたらお問い合わせ願います。

燈籠代 二千円

申込み 手紙又はFAXに郵便番号、住所氏名、電話番号及び願い事を明記の上、左記までお申込み下さい。

〒一九三・八六八六

八王子市高尾町二二七七

高尾山信徒課

締切り 八月十七日



参道を照らす春日燈籠

※紙燈籠につきましては、二十三日の夕刻にも献灯致します。

夏の高尾山「清涼」体感めぐり

盛夏の高尾山上は都心に比べて平均気温が約二度低いことから、八月に夏そばキャンペーンなど、「夏の高尾山「清涼」体感めぐり」をテーマとした様々な催しが行われます。

薬王院においても、八月中の「そば御膳」は普段と趣向を変えてご用意する他、八月二十二日、二十三日の夕暮れ時には「灯りの巡礼」として、参道の春日燈籠に灯りが点されます。



※そば御膳のイメージ

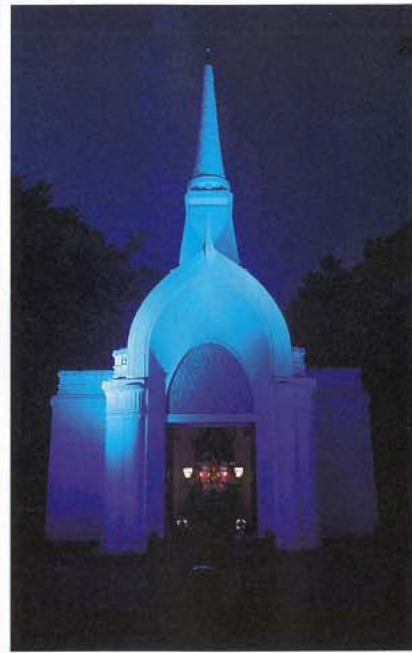
医療従事者応援キャンペーン 仏舎利塔をライトアップ

現在全世界的に、新型コロナウイルスと最前線で戦いを続けている医療従事者の方々に対し、敬意を表するとともに、感謝の念を届ける運動が続けられております。

その一つに、各地のランドマークを青色でライトアップする「Make it blue」という、イギリス発祥の医療従事者応援キャンペーンがあります。

高尾山も、日本全国の主要施設を青く染める「Light it blue キャンペーン」に、八王子青年会議所のお誘いを受けて参加させて頂き、六月七日に京王電鉄高尾山口駅、高尾登山電鉄清滝駅と共に有喜苑仏舎利塔をライトアップ致しました。

密集を避けるために非公開で実施致しましたが、純白の仏舎利塔が感謝の念で青く染まり、夕闇の中から響く、ほら貝の音が、いまだ流行終息へ先行きの見えない中、奮闘する多くの医療従事者の方に届くよう願っております。



写経大会のお知らせ 在宅写経のおすすめ

先月号にて開催延期をお知らせ致しておりましたが、第三十九回高尾山写経大会につきましては、新型コロナウイルスによる感染症終息への先行きが見通せないため、参加者の皆様方の健康と安全を考慮して、高尾山上での実施を中止し、在宅参加のみにて開催すること致しました。御信徒の皆様方には御迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。

在宅にて写経大会参加をご希望の方につきましては、写経作法・心得を記した「写経の手引き」等、写経用紙一式を送付致しますので、ご自宅にて書写後、同封の返信用封筒にてお送り下さい。

ご返送頂きました写経は、八月の御本尊様御縁日（八月二十一日）に御本尊様の御宝前に奉納致しました後に、諸願成就を御祈念申し上げ、納経箱に奉安致します。

写経 『般若心経』
参加費 二千円

※参加費につきましては、写経用紙等に同封致します。払込取扱票を利用し、郵便局にてお支払い願います。ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上、左記までお申込み下さい。

〒一九三・八六八六
八王子市高尾町二二七七
高尾山写経大会係

締切り 八月十七日



高尾山報助成金志納者	御芳名(順不同・敬称略)	本庄市	金井 俊夫
新座市	杉山 稗麿	多摩市	坂本 英雄
行田市	渡辺 宏	新座市	高橋 久子
加須市	坂本 隆志	八王子市	落合 義晴
町田市	串田 高幸	桐生市	福澤 玲子
葛飾区	押切 照代	台東区	榎フー
練馬区	稲毛 竹次郎	葛飾区	フアクトリー
八王子市	石田 英子	北茨城市	増淵 ミヨ
深谷市	黒須 博一	八千代市	大川 洋治
町田市	田中 佐智野	藤沢市	由井 健也
多摩市	小平 未喜	国立市	石川 誠之助
八王子市	村山 多恵子	佐野市	荒居 幸子
立川市	倉石 芳和	八王子市	石井 征二
江戸川区	片岡 正一	川口市	大畑 みどり
国分寺市	西沢 満男	吉川市	飯島 和子
八王子市	地藤 健史	佐野市	大長 一雄
相模原市	古田 喜平	江東区	浅見 和義
宮崎市	遠藤 恵子	立川市	小川 富男
川崎市	木村 博俊	新潟市	長嶋 正栄
郡山市	美濃部 良	比企郡	横田 松雄
横浜市	渡邊 鐵男	甲州市	植野 幸子
八王子市	平塚 紀美子	所沢市	土屋 信男
邑楽郡	神田 辰男	西多摩郡	吉川 英男
富士吉田市	八山 國雄	松本市	青木 洋子
さいたま市	渡辺 友光	横浜市	高橋 洋子
	遠藤 隆雄	白河市	高橋 洋子
		世田谷区	眞保 龍敬
		八王子市	宇津木 愛代
		荒川区	三瓶 恵由
		高尾山健康登山者一同	



登山だより

八月行事日程

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

六日、十八日、三十日

弁天様御縁日

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

十一日

御詠歌勉強会

(十時山麓不動院)

二十二日

月例写経会

(十三時山麓不動院)

三十日

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)



二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

二十八日

奥之院開扉供養

(十時奥之院)

☆神徳報謝百味飲食供

高尾山御本尊飯縄大権

現様の日々の御加護に感

謝し、沢山の御供物を捧げ

て御本尊様威光倍增の為、

御供養申し上げる法要で

す。

皆様の御志納を受け付

けておりますので、ご希望

の方は大本堂までお申し

出下さい。

尚、法要終了後に百味の

お札を授与致します。

毎月二十二日午前九時勤修

御志納金 一口三千円以上

毎日の お護摩奉修時間

(4月15日～10月31日まで)

午前5時30分

〃 9時30分

〃 11時00分

午後0時30分

〃 2時00分

〃 3時30分

ご講中・団体等御相談
下さい。

業務再開のお知らせ

「新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき緊急事態宣言」が発出されてから五月底日まで、御守授与所の縮小、御朱印授与や高尾山健康登山の証への押印の停止や、精進料理提供の中止など、様々な業務を縮小する特別業務体制を実施しておりました。

現在では緊急事態宣言解除を受け、六月三十日現在において御護摩受付等の業務を、次の通り再開しております。

御護摩受付

護摩受付所・団体護摩受付所にて
受付業務を再開。

御札・御守

一部の授与所を除き御札御守の
授与を再開。

御朱印・健康登山の証

護摩受付所にて業務を再開。

山麓別院不動院

開扉いたします。

蛇滝・琵琶滝の初心者入滝指導

水行道場の入滝修行を再開。

精進料理の提供

高尾膳・天狗膳の予約受け入れを再開。
(但し健康登山祝膳及び
護摩修行坊入券使用の食事は除く)

◆お知らせ

高尾山薬王院では、新型コロナウイルスの感染予防を図る為、境内各所への消毒液設置・換気・職員のマスク着用などの対策を実施しております。御来山の皆さまにおかれましても、手洗いやマスクの着用等の予防対策情報に十分留意されますようお願い申し上げます。



高尾山薬王院ホームページ
<http://www.takaosan.or.jp>

発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 菅谷秀文
編集人 渋谷秀芳
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円